

所 属：大阪大学附属図書館学術情報整備室

職 名：図書職員

氏 名：土出郁子

下記の通り報告いたします。

期 間	平成 20 年 11 月 16 日 ～ 平成 20 年 11 月 23 日
出張目的	(1) The SPARC Digital Repositories Meeting 2008 参加 (2) 北米の学術機関への見学および意見交換
用務先	(1) Renaissance Harborplace Hotel : ボルチモア【アメリカ合衆国】 (2) The National Library of Medicine(NLM) : ベセスダ【アメリカ合衆国】 George Mason University Johnson Center : フェアファックス【アメリカ合衆国】 Columbia University Library : ニューヨーク【アメリカ合衆国】
用務	(1) アメリカにおけるリポジトリやオープンアクセスの趨勢を知るため、デジタルリポジトリ連合(以下、DRF)の一員として 2 日間の会議に参加。 (2) The National Institute of Health(NIH)の Public Access Policy に伴う状況調査、アメリカの個別大学におけるリポジトリへの取り組みについて意見交換のため、各機関を訪問見学。
出張内容	(1) The SPARC Digital Repositories Meeting 2008 参加 11月17日(月) ・終日 SPARC Meeting 初日に参加、基調講演および 2 つのセッションを聴講。2 番目のセッションである「Value-Added User Services」で、"A Usage-centered Approach to the Promotion of Institutional Repositories" と題して金沢大学の内島課長が DRF の活動および、AIRWay, IR cures ILL, ROAT 等について口頭発表を行った。 ・Reception 時に行われた Innovation Fair で、筑波大学の金藤氏が SCPJ について発表(2 分間のショートプレゼンテーション)を行った。 11月18日(火) ・終日 SPARC Meeting 2 日目に参加。後半 2 つのセッションを聴講および Marketing Practicum に参加した。午前のセッション「The Policy Environment」で千葉大学の土屋教授が日本の機関リポジトリをめぐる状況について、前回の SPARC meeting が開かれた 4 年前と比べてどう変わったかという切り口で口頭発表を行った。Marketing Practicum は、学部の経営者に対してどのようにリポジトリ推進のアプローチを行うかという簡単でシステムティックなワークショップであった。 ・空き時間に、DRF と欧州 DRIVER プロジェクトとの間で協力関係締結の覚書について協議が行われた(DRF 側：内島氏、土屋教授、DRIVER 側：Lossau, R.氏, Peters, D.氏)。 (2) 北米の学術機関への見学および意見交換 11月19日(水) (以後の行動は、金沢大学川井氏と土出の 2 名で行った)

出張内容	<p>・午後, The National Library of Medicine (NLM)を訪問。Public Access Policy 成立の経緯や内容, Open Access 全般および PubMed Central の果たす役割などについて伺った。また, NLM の館内や貴重書の見学など, NLM のサービス全体についても説明等を受けた。あわせて, NLM の一部局である Specialized Information Services(SIS)の Hale, D. S.氏より, 災害情報の日本語版を Medline Plus に掲載するため協力組織等を紹介してほしい旨相談があり, 持ち帰ることとなった。</p> <p>11月20日(木)</p> <p>・午前: George Mason University Johnson Center Library を訪問。学生専用の建物である Johnson Center と図書館の建物やサービス概要について伺った。</p> <p>・ランチタイム: コーディネートをしてくださった Gibson, C.氏等のご厚意により, ランチミーティングタイムを持った。SPARC meeting の出席者で Innovation Fair でも発表されたリポジトリ担当の Beers, S.氏, Johnson Center Library を案内してくださった Oberle III, GD.氏, Gibson 氏と図書館サービス全体について, 特に Beer 氏とはリポジトリサービスの構築について, 意見交換をおこなった。</p> <p>11月21日(金)</p> <p>・午後: Columbia University Butler Library を訪問。Butler Library の見学と学生へのサービスについて, C.V. Starr 東アジア図書館の野口氏および Butler Library の Stuveras, Junko S.氏からお話を伺った。</p> <p>・コロンビア大学のリポジトリについて, リポジトリコーディネータの Holsted, S.氏とミーティングを行った。また, Copyright Advisory Office の Crews, K.D.氏から著作権問題への取り組みについて伺った。</p>
出張成果	<p>(1) The SPARC Digital Repositories Meeting 2008 参加 リポジトリやオープンアクセスについての広範なテーマに基づく発表を多く聞くことができ, 日本でのリポジトリサービス活動についての参考となった。 DRIVER プロジェクトメンバーと DRF メンバーが直接協議を行い, 1週間後(11/25)の覚書締結に結びつけた。</p> <p>(2) 北米の学術機関への見学および意見交換 NIH の Public Access Policy と NLM における対応の実際や実情を知ることができた。また各大学での意見交換では, リポジトリや図書館サービスについて, 日本と同様の問題をアメリカの実務担当者も感じていることを知り, 有意義な意見交換を行うことができた。本出張の内容は DRF の公開メーリングリストで報告し, 情報の共有につとめた。</p>

- 【注】
- ◇ 会議, 学会等に出席の場合は, 講演, 座長などの役割, 会議概要などを明記する。
 - ◇ 聴講のみの場合には, 会議における研究動向, 企業や大学の動向, 注目すべき発表, 日本からの参加者など, 会議内容に関する, より詳細な内容を記入する(スペースが足りない場合は, 適宜, ページを追加)。